

〈所管説明資料〉

平成22年度

キャリア教育実践セミナー

キャリア教育の推進

山口県教育委員会

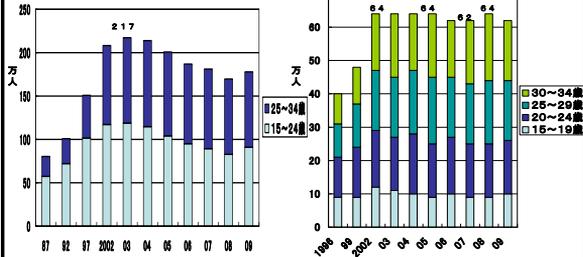
キャリア教育が求められる背景

- 産業構造の変化や雇用の多様化・流動化を背景とした進路をめぐる環境の変化
- 若者の職業人としての基本的資質や能力の低下
- 社会的に自立していない若者の増加

フリーター・ニートの状況

フリーター数の推移

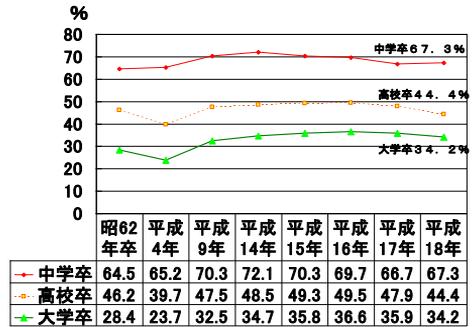
ニート数の推移



○「フリーター」の数は、217万人（2003）をピークに、減少していたが、2009年は増加し約178万人に。
 ○「ニート」の数は、2002年に64万人に増加して以降、ほぼ同水準で推移していたが、2008年は64万人、2009年は63万人。

総務省統計局「労働力調査」

就職3年以内の離職率



厚生労働省職業安定局「職業安定業務統計」

文部科学省 平成21年5月調査

- ・ 中学校卒業者 **14,200人**
(1,188,000人中) 1.2%
 - ・ 高等学校卒業者 **68,400人**
(1,063,600人中) 6.4%
 - ・ 短大卒業者 **12,900人**
(78,100人中) 16.5%
 - ・ 大学卒業者 **89,800人**
(559,500人中) 16.0%
- 合計 185,300人**

卒業時点で進学も就職もしない

キャリア教育の経緯

- ・ 昭和46年(1971年)アメリカで初めて「キャリア教育」が提唱
- ・ 平成11年 中教審答申に初めて「キャリア教育」が登場
 - (1) 本来の「進路指導」をより一層推進するため
 - (2) 小学校段階からの取組を図るため
 - (3) 各省合同で取り組むため
- ・ 平成15年 各省合同「若者・挑戦プラン」策定
- ・ 平成18年 各省合同「若者自立・挑戦のためのアクションプラン」策定
- ・ 平成20年 1月 中教審答申「学習指導要領等の改善」
3月 小学校・中学校の学習指導要領改訂
7月 「教育振興基本計画」閣議決定
- ・ 平成21年 高等学校の学習指導要領改訂
総則に初めて「キャリア教育」が明記
- ・ 平成22年 中教審「キャリア教育・職業教育特別部会」
第2次審議経過報告(5月)

小学校の新学習指導要領 (平成21年度「総則」先行実施)

- 児童が自己の生き方について考えを深め、家庭や地域との連携を図りながら、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して、児童の内面に根ざした道德性の育成が図られるよう配慮しなければならない。
- 各教科等の指導に当たっては、児童が学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会を設けるなど工夫すること。

(第1章「総則」抜粋) 7

中学校の新学習指導要領 (平成21年度「総則」先行実施)

- 生徒が道德的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して、生徒の内面に根ざした道德性の育成が図られるよう配慮しなければならない。
- 生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンス機能の充実を図ること。

(第1章「総則」抜粋) 8

教育振興基本計画 (平成20年7月閣議決定)

- 子どもたちの勤労観や社会性を養い、将来の職や生き方についての自覚に資するよう経済団体、PTA、NPO等の協力を得て関係府省の連携により、小学校段階からのキャリア教育を推進する。特に中学校を中心とした職場体験活動や、普通科高等学校におけるキャリア教育を推進する。

「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」より

9

高等学校の新学習指導要領 (平成22年度「総則」先行実施)

- 学校においては、キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域や産業界等との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験の機会を積極的に設けるとともに、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得るよう配慮するものとする。
- 生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること。

(第1章「総則」抜粋) 10

パンフレット・手引きの作成・配付

<文部科学省 国立教育政策研究所>



パンフレット・手引きの作成・配付

<文部科学省 国立教育政策研究所>

- **パンフレット**
 - **自分に気付き、未来を築くキャリア教育**
～小学校におけるキャリア教育推進のために～
平成21年3月 各小学校10部
 - **自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育**
～中学校におけるキャリア教育推進のために～
平成21年11月 各中学校10部
 - **自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育**
～高等学校におけるキャリア教育推進のために～
平成22年2月 各高等学校15部
- **手引き**
 - **小学校 キャリア教育の手引き**
平成22年1月 各小学校2部

※中学校・高等学校の手引きは今年度作成・配付予定

12

本県のキャリア教育のねらい

- 夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力の育成

13

キャリア教育の進め方

- 発達段階に応じて
小学校段階から教育活動全体を通じての系統的な取組の積み上げ
- 体験活動を重視して
職場体験、インターンシップ等の体験活動の充実
- 連携・協力して
学校と家庭・地域、産業界等との連携協力体制の強化

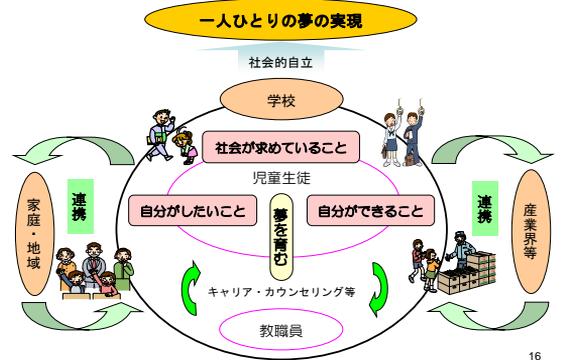
14

取組の方向性

- 2つの能力の育成に重点を置いた指導の充実
・将来設計能力とコミュニケーション能力
- 小・中・高を通じた系統的・計画的なキャリア教育の推進
- すべての学校で組織的なキャリア教育を推進
・各学校の実態と児童生徒のニーズ等を踏まえた取組
・夢や目標を考える視点を踏まえたキャリア教育全体計画や年間指導計画の作成・見直し
- 学校と家庭・地域・産業界等との一層の連携

15

山口県のキャリア教育の概念図と視点



16

具体的な取組内容

(1) 小・中・高を通じた系統的・計画的なキャリア教育の推進

<発達段階に応じて夢や目標を考える視点>

- 自分がしたいこと
- 自分ができていること
- 社会が求めていること

発達段階に応じた継続的な指導

17

<発達段階に応じて夢や目標を考える視点>

発達段階 視点	小学校(小学部)			中学校(中学部)			高等学校(高等部)		
	低学年	中学年	高学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
自分が したいこと	様々な体験等を通じて自分がしたいことを見つけ、将来の夢につなげる								
自分が できていること	夢や目標の実現に向けて継続的に努力し、自分ができていることを増やし自分のよさを伸ばす								
社会が 求めていること	社会の一員としての自覚を深め、自分の役割を果たそうとする意欲や能力を高める								

18

具体的な取組内容

(2) 学校と家庭・地域・産業界等と連携したキャリア教育の推進

- 家庭や地域に対する働きかけ
- 産業界に対する働きかけ

19

キャリア教育推進事業

- キャリア教育実践協議会
キャリア教育推進会議
キャリア教育実践セミナー
- 発達段階に応じたキャリア教育支援事業
- 高等学校における進路指導の在り方に関する調査研究
- インターンシップ推進事業 等

20

キャリア教育実践協議会

キャリア教育推進会議

- ・有識者、経済団体等・PTA・行政機関・学校・県市町教委の関係者から構成
- ・キャリア教育の推進についての指導助言

キャリア教育実践セミナー(県内2か所で8月に実施)

- ・所管説明、校種別協議
- ・小・中・高の実践発表
- ・学校、家庭・地域、産業界代表によるパネルディスカッション
- ・グループ協議

21

発達段階に応じたキャリア教育支援事業

(柳井市、美祢市、下関市、小・中学校10校)

小・中学校において体系的・一貫的な教育活動を実施するための学習プログラムの開発と提示に関する取組

高等学校における進路指導の在り方に関する調査研究

(県立柳井高等学校、県立新南陽高等学校)

普通科高校におけるキャリア教育の実践的研究

22

キャリア教育の進め方

- 発達段階に応じて
小学校段階から教育活動全体を通じての系統的な取組の積み上げ
- 体験活動を重視して
職場体験、インターンシップ等の体験活動の充実
- 連携・協力して
学校と家庭・地域、産業界等との連携協力体制の強化

23

教育活動全体を通じて・・・

- 各教科
- 総合的な学習の時間
- 道徳
- 特別活動
- その他

24

各教科

- 小学校 生活科「大きくなった自分」
社会科「産業と人々の生活」
- 中学校 国語科「他者の考えの尊重、自己表現」
技術・家庭科「私たちの家族と地域、
自己の成長と家族」
- 高等学校 数学科「実社会における数学の活用」
外国語科「自分の未来を英語で表現しよう」

すべての教科・科目、単元、教材を、
キャリア教育の視点でとらえ直しましょう

総合的な学習の時間

- 小学校 「公園はかせになろう」
「地域の人々の生き方に学ぶ」
「1/2成人式」
- 中学校 「社会福祉体験」
「職業調べ・上級学校調べ」
「職場体験」
- 高等学校 「インターンシップ」
「高大連携(大学の授業を受講)」
「研究発表会・研究論文作成」

道徳

- 小学校 「公德心・決まりを守る」
「勤勉努力・ねばり強さ」
「働くことの意義」
- 中学校 「理想の実現」
「個性や立場の尊重」
「年齢に応じた社会的責任」
- ◆高等学校:学校教育活動全体を通じて
(道徳教育全体計画の作成)

特別活動

- 小学校 「ともだちをつくろう」
「係と当番活動を見直そう」
「なかよし班(異学年)活動」
- 中学校 「遠足、修学旅行(班行動・コース選択)」
「生徒会活動、係・班活動」
「15歳の決意(わたしのライフプラン)」
- 高等学校 「ライフプラン(将来設計)の作成」
「進路講演会」
「体育祭、文化祭」

学校における推進の手順例

- 1 キャリア教育の視点を踏まえ、育てたい児童生徒像を明確にする。
- 2 学校教育目標、教育方針等にキャリア教育を位置付け、キャリア教育全体計画を立てる。
- 3 組織として、キャリア教育推進委員会(仮称)を設置する。
- 4 教職員のキャリア教育についての共通理解を図る。
- 5 キャリア教育の視点で教育課程を見直し、改善する。
- 6 キャリア教育を実践する。
- 7 家庭、地域に対し、キャリア教育に関する啓発を図る。
- 8 キャ **全体計画に基づいて推進しましょう**

よく「キャリア教育の視点で」と言いますが
この「視点」とは？

- キャリア教育の「視点」とは、将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら子どもたちの成長や発達を促進する見方をもつこと
- 様々な教育活動を通してどのような資質や能力、態度を育てていけばいいのかを検討しキャリア教育としてのねらいを意図的・計画的に設定していくことが大切



キャリア教育の推進

御静聴ありがとう
ございました。